

令和5年度法人本部事業計画

1. 事業計画の概要

前中期計画中に新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、様々な事業活動が低迷した。当法人は、感染症の不安や自然災害の多発など、不確実なリスクに直面する社会情勢下で運営の中で「人とのつながり」の尊さを再認識した3か年となった。景気低迷・物価高騰・不確実な世界情勢や専制化する社会システムを背景に、地域社会の希薄化、貧困の連鎖、少子化問題、生産労働人口減少、日本経済の低迷による貧困格差は、当法人を利用者される子ども・高齢者・地域住民等の「生きづらさ」としてあらわれ、深刻さが増している。さらに国や地方自治体の財政状況も厳しさを増し、地方分権と行政の効率性を求める動きが強まり、地域が抱えているさまざまな問題への対処を地域住民の主体的な活動に委ねる傾向が強まっている。

このような状況の中で、社会福祉法人が果たすべき役割として、安定した財務基盤による、持続可能な法人・施設を実現し、不確実な社会状況の中を、入居者・児の権利が守られ、地域社会やコミュニティを築いていくことが求められている。

そのために、5か年計画の1年目は、各事業の地域活動の再開及び各委員会活動の充実を図っていく。委員会活動は法人全体の課題を踏まえ、内部統制・ガバナンスの構築を具体的に展開する内容になっている。

私たちは、地域課題に地域共に伴走する組織として、常に「当事者性・当事者主権」が発揮できる、多文化が交わりあうコミュニティづくりをベースとし事業を展開する。

2. 財務の視点(財務基盤等の安定)

(1) 公益事業の安定的運営

クラウドファンディングによる地域公益活動資金の確保・協賛企業の発掘

(2) 施設財務の安定

大規模修繕に向けた自己資金の積み立て(1号館・2号館) 毎年1200万

(3) 寄付募集の強化

情報発信の強化(ホームページ・SNS) 年間寄付金額 500万目標

3. 顧客の視点(サービスの質の向上・新規サービス・環境整備・地域貢献等)

(1) ミックスモダンの地域公益事業の推進

- ① 法人間連携の推進(若者の起業支援・NPO法人活動支援)
- ② ごちゃまぜ食堂・ふれあい会食・子ども食堂・地域講演会の継続と拡大

(2) 既存事業の多機能的地域展開の実施

- ① 児童養護施設本体の建て替え及び地域小規模の開設に向けた委員会実施

(3) 職員の雇用環境の充実(四恩働き方委員会のプロジェクト)

- ① 実施再雇用制度の構築(継続雇用75歳制度の導入)
- ② 休日・有給取得など年間総労働時間の見直し・労働環境改善
- ③ 給与規程等の諸手当の見直し

4. 内部統制の視点(働きやすい職場環境・労働環境等)

(1) リスク・人権等の政策の推進

- ① メンタルケア体制の構築とハラスメント撲滅
- ② ケアの質を考える委員会の推進
- ③ 権利擁護推進に向けた、各施設での委員会立ち上げ対応マニュアルの作成
- ④ リスクマネジメント委員会の推進

(2) 「四恩学園での働き方検討委員会」の実施

- ① 雇用制度(持続可能な給与制度・退職要件の見直し)の見直し

(3) 業務の適正化及び効率化の推進

- ① 内部統制の確立及びBCP/BCM経営の徹底(2か月ごと開催)
- ② 法人・施設の運営評価の体制整備(特養の第三者評価実施)

(4) 人材育成・定着の推進

- ① 四恩人材キャリアセンターの運営推進（人材成長推進部署に向けて）
- ② 人材確保・採用業務の構築
- ③ 職員満足度調査の実施

(5) 地域福祉の拠点及び包括支援体制に向けた組織化

- ① ミックスモダン組織活動の可視化・法人内連携の推進

5. 学習と成長の視点（雇用・人材育成・キャリアアップ等）

(1) 法人研修体系の確立（四恩人材キャリアセンターの運営）

- ① 新人職員の採用時までフォローのための研修の実施
- ② 次世代研修・法人間協働研修の実施（博愛社・ライフサポート）

(2) IT能力向上支援の実施

- ① 業務のIT化の推進のため、システム導入・IT教育に関する研修を実施

(3) リスク・人権等の政策の推進

- ① ケアの質・リスクマネジメント・権利擁護に関する研修推進